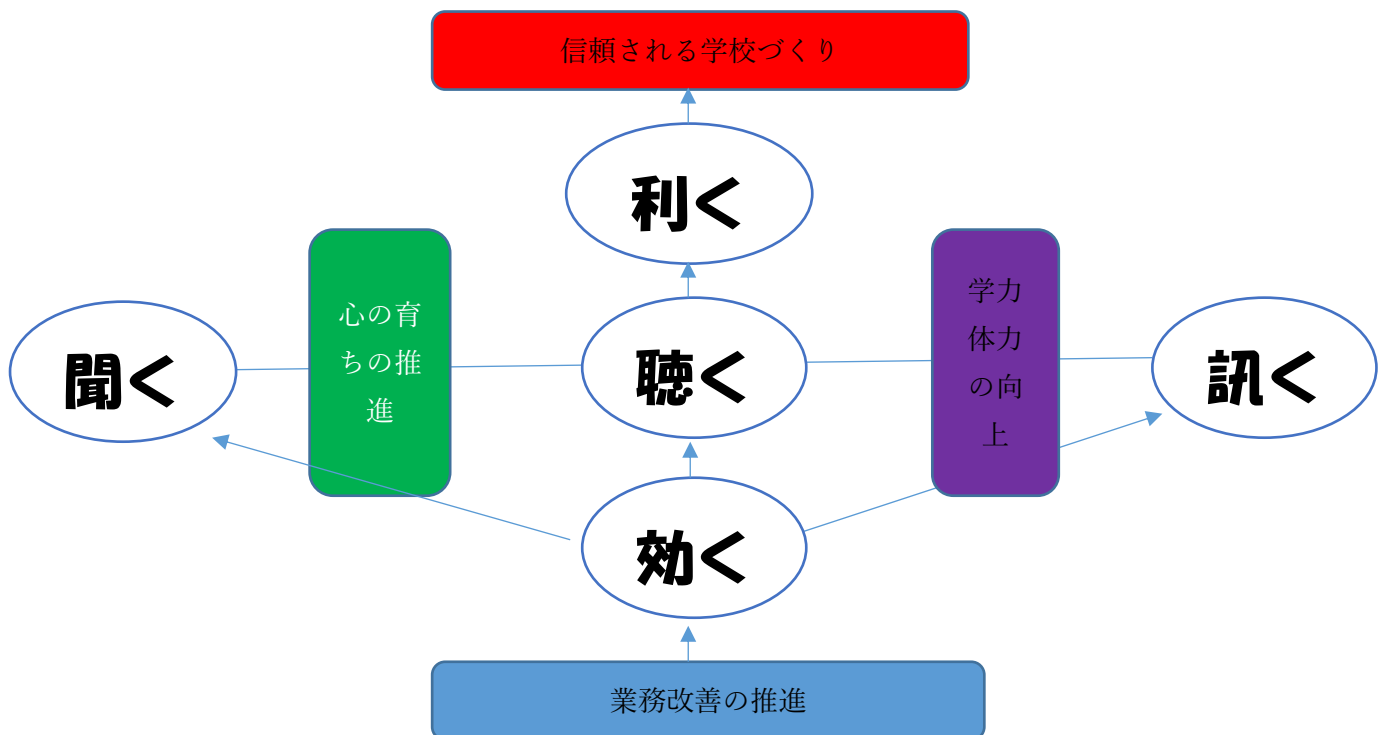


菊(キク)陵中の5つのキク



心の育ちの推進

①道徳授業力のアップ

- ・推進事業(参加未定)による校内研修や公開授業等の実施
 - ← 学年ごとにローテーション授業を実施する。
 - 特に、若年教員(10年次以内)は積極的に授業を参観する。〈校内 OJT〉
 - ←道徳評価について研修を重点的に実施する。
- ・全校統一の「道徳振り返りシート」の活用

②生徒指導の推進

- ・凡事徹底(挨拶 掃除 時間を守る 整理整頓 服装)
- ・“ハウレンソウカク”と記憶より記録の徹底
- ・組織的・機動的な生徒指導体制の確立(特に長欠生徒対応)

③国際理解教育の推進

- ・SDGs 推進校の実践(SDGs 啓発 コロナ対応を踏まえた服プロジェクトや JICA 交流の実施)
 - ←服プロジェクトの実施(プロジェクトチーム)、国際教育関係講演会等の実施
 - ←各学年・各教科の取組の実施(特に1・2年「SDGs 副読本」の活用)
 - ←タブレットを活用した発表(プレゼンカ)に重点を置き、クラス発表会、学年発表会、文化発表会と発表する場をつなげ広げる。〈総合的な学習の時間とのつながり〉
- ・帰国外国人児童生徒教育センター校としての役割

④学級活動・生徒会活動の充実

- ・学年・学級目標の設定と帰りの会の時間を有効に活用する
 - ←帰りの会の充実 <例>月…教師の話 火…生徒スピーチ 水…教え合い学習(タブレットタイム)
 - 木…生徒スピーチ 金…週の振り返りを書く
 - 一日の反省、学習の取組、生徒会活動の反省の取組、教師のタイムリーな話、生徒個々の発表 等
 - ←「子どもつながりプログラム」の確実な実施のため、各学期の最初と最後の月を実施月とする。特に、自己肯定感の向上を重点ポイントとする。
- ・生徒会常置活動の徹底と生徒会行事の充実
 - ←学習成績や生徒会点検活動で、あまり良い結果とならなかった時こそ、担任としてクラスをまとめ再チャレンジの意欲を囿る取組を実施する。
 - ←点検活動結果表の作成や教員の作成したシナリオセリフにたよらせない行事進行など、生徒自身が作り出していくよう指導する。

⑤教科等横断的な取組の充実

- ・人権教育…新版「いのち」、「子どもつながり P」や「明日への伝言板」
 - ←教職員の研修として従来からの地域との人権研修(人推協と進路学習会)参加をローテーションで全職員が参加する。
- ・進路指導…進路説明会 進路学習
 - ←総合的な学習の時間に計画的に取り入れていく。
 - ←高校説明会は実施しない。オープンスクールへの参加推奨や積極的な「ゆめワーク」の参加
- ・情報教育…情報モラル タブレット授業
 - ←道徳の時間と連携して情報モラル教育を進める。
 - ←モラル啓発プリント(教育委員会毎月発行)等を活用する
- ・防災教育…避難訓練
 - ←年間3回、計画的に災害を想定し実施する。(火災・地震・不審者・その他)

←従来よりも有効性のある緊張感がある訓練を実施する。生徒に事前に知らせずに実施することも計画する。

⑥小中連携

- ・生徒会執行部を中心にいじめ防止の取組を小中で進める。
- ・コロナ対応を踏まえながら小中の教職員と児童生徒の交流を進めていく。

←教職員…夏季研修

児童生徒…<例>文化発表会等の成果を生徒が児童に発表する、「学び方ハンドブック」を活用して学習や進路について等の話を生徒が児童にする等。

学力・体力の向上

①教科授業力のアップ

- ・ICT活用した授業実践

←2学期末までに年間1回以上はタブレットを活用した授業を全教職員が管理職に公開する。

- ・教科部会を中心としたカリキュラムマネジメント

(学力調査・体力テスト等から課題を分析し、全職員が共通理解し、学校全体で取り組みを進める)

←宿題や週末課題を積極的に課し指導する。

週末課題等では、定期考査だけではなく実力テスト等に向けて計画的・継続的に課す。

タブレットドリルアプリを積極的に活用する。

②学力向上委員会等を機能させた取組の推進

- ・学びチャレンジ(教科の指導と評価)を3年間の実践的研究<令和5年度:1年次>を進める

←3観点評価を意識して、振り返りシートやレポート等を積極的に書かせる。

←評価内容・方法等については、生徒に説明し保護者に提示する(5月末まで)

←学力向上3部会「授業力向上部」が中心となり実践的研究を計画していく。

- ・全校生徒に学習について説明を行う

←「学び方ハンドブック」を新入生に配布するとともに、KSPノート活用などについて生徒(学習委員長等)が説明をするよう指導する。

- ・授業規律の徹底…立腰と話し合いや振り返りのルール化

←学級担任は立腰モデル図を教室(特別教室含む)前方に必ず掲示する。

←授業の始まり・終わりには、立腰モデル図を意識させ、徹底を図る。

←学級担任は立腰モデル図を教室(特別教室含む)前方に必ず掲示する。

- ・基礎学力の定着

① 朝自習の工夫

←<月・水曜日>タブレット(ドリルアプリ)、<火・木曜日>ゴクトレ、<金曜日>校長室からの週末課題

←読書活動の推進(朝読)、考査前予想問題への取組

② 読書を習慣化させるための年間を通した取組を充実させる(読書の日・夏課題図書・朝自習・昼放送 等)

③ 家庭学習習慣…自学ノート(KSPノート ※学年による活用期間が異なる)の活用

④ 教え合い学習の時間「菊陵タイム」…毎月1回以上の設定

④ 学習意欲の喚起…年度末の3年生から1・2生への話 その他

毎月、開催される学力向上委員会には上記の担当者が参加していく。学力向上の取組は担当者だけで進めていくには、担当者の大きな負担となる。学力向上の取組は、本校の教育課題の重要ポイントである。その意識を全教職員で高めていくためにも、各担当者を他の教職員が支えていく必要がある。

③生徒一人一人のニーズに応じ対応(特別支援教育の充実)

- ・「ゴクトレ」の活用

←<研究実施課題>

「学習の土台の強化からの学力向上 ～コグトレの活用（認知機能強化トレーニング）を通して～」

■ コグトレと教科指導をつなげる 声掛けや授業導入等

■ 学力の向上を中心に進めていくが、広い意味では生徒指導や学級経営等を含めた心の教育や長欠・不登校防止等にもつなげていく

・個別の指導計画等の確実な作成と引き継ぎ

・教育相談の充実

←教育相談実施のための教員のスキルアップを図るため、SC等からの指導助言を受ける。

④体力向上にむけた創造的な取組

←従来の体育大会からの変革 5/27(土)

←体カテスト

⑤学校・教室環境の整備と校内・教室掲示の充実

←有効的な掲示 ユニバーサルの視点

信頼される学校づくり

①積極的な情報発信

・各種通信の発行 「学校だより」は毎月学校HPにアップする

「学年・学級通信」は管理職の点検を受けたあと、発行し一部を校長に提出する

・「一斉メール」「tetoru」やFormsの効果的な活用等

←発信権限を管理職と学年主任に拡大する。学年主任が発信する内容は管理職の確認を事前に得る。

・学校HPの積極的な更新

②家庭・地域・関係機関との連携の強化

積極的な諸行事等への参加 SCやSSWの活用

←人権関係の参加や校区夜間パトロール(できるかぎり1回/年程度にする)等の参加は全教員で分担する。

③『北九州市型コミュニティー・スクール』への円滑な移行をめざす

・年間2回実施する。前期…本校のみ 後期…校区(菊陵中+小倉中央小)

・学校評価アンケートの実施と活用

④学年保護者会、体育大会、文化発表会、講演会等の公開で行う教育活動の充実

⑤積極的な保護者との連絡と適切な家庭訪問

←学年職員での情報の共有化と管理職への報告・連絡・相談

⑥帰国外国人児童生徒教育センター校

・センター校会議等やインターシッ

・専任教員とクラス担任・教科担任の連携を図る

業務改善

①働き方改革(ワークライフバランス)の推進

・勤務時間減の対策…システムによる管理 留守電の活用(※週休日の部活動連絡)

←定時退校日について、保護者の理解を得るため、学校だよりや学年保護者会等で説明する。

←家庭訪問を希望制とする。

※学年保護者会で、校長や学年主任から家庭学習・SNS・評価・家庭訪問等の年間予定等に関して話をする

(学年保護者会・生徒ともに→学級保護者会・生徒なし→個別相談※家庭訪問希望者を減らす)

←予定を入れない放課後づくり

EX: 月…× 火…(会議・研修等) 水…× 木…終礼(職員会議・研修等) 金…(菊陵タイム)

←清掃活動を週3回(月・火・金)とする。

・仕事量の削減と均衡化…行事の精選 副担任の活躍

←均衡化を図るため、校務分掌リーダーは校長が指名する。

←会議削減等…時間割の工夫

(企画委員会:毎月・学力向上委員会:隔月・生徒指導委員会:毎月は時間割に組み入れる)

←企画委員会等の充実(企画委員会や職員会議等に提案される議案は、事前の管理職に見せておく)

←ペーパーレス化

②チーム菊陵の意識向上とOJTの推進

・支え合う 気配り 年休等が取りやすい環境づくり

←年間5日以上の子休取得を確実にする

←休憩時間の確保 13:25~13:40 16:25~16:55

教職員の休憩時間になったらチャイム(音楽)等で知らせるとともに、給食中にも休憩時間啓発放送を行う。

生徒や保護者への周知(休憩時間の意義・効果)を図る。

会議は16:00~16:25に設定する。そのためにも、会議時間の縮小化を工夫と開始時間の厳守を図る。

・OJTのメンティーメンバーは、4月までに校長から指名する。

←全職員で人材を育成するという意識を持つ。メンティーは積極的に動き尋ねる。

③業務改善委員会の運営

←企画委員会等の会議で協議する

④定時退校日、部活動休養日の順守

←定時退校日は毎月2回以上設定する。

←部活動休止日(第三水曜日)を定時退校日とする。定時退校日は部活動休止日以外に毎月1回以上設定する。

⑤部活動の適切な運営

効果的な練習計画と適正な休養日

←毎月提出の部活動指導計画の徹底及び週末練習予定表(ホワイトボード)の記入

⑤学校事務職員の学校経営への参画促進

※大規模改修について

令和5年度

夏季休業中に工事…教室棟1階 9月~10月…教室棟2階 10月~11月…教室棟3・4階

生徒教室の工事期間中の移動先は後日連絡する。

※夜間中学の設置

令和5年度

関係教室等の工事

設置に伴う本校との運営上にかかわることは後日説明する。

令和6年度

開校予定